あらためて、避難についておもう（１）

何か災いが及ぶということになれば安全なところへ移動して安心するという行動が避難であることは当たり前ですが、この避難はこれまで我々はどのような判断のもとで行動されているのだろうか。何人かの人に聞いてみると、火災などではこれまで多くを見聞してきているので、なんとなく避難すべきかどうかの判断には悩みはないが、洪水や地震、土砂災害となると現象も様々、どこに何がどうなるのか見当がつかないので火事などとは違うような気がするといわれる。おそらく、避難は自分からというよりも警報や消防の方々に言われるままということになるのではないかといわれます。しかし、いつでもどこでも適切に防災情報が得られれるという保証がされているとは限りませんし、国内外での旅行中を考えると、自分での判断でうまく避難できるだろうかと心配になります。

避難というのは、避難せよという指示に盲従するもの、状況を判断して先を読んで行動を起こすものがあるとはいえ、どちらにも課題があるということです。その一つに、いつ、どのタイミングで避難する状況になるかの判断、それをどのような方法で伝達して、行動してもらえるか、自分は大丈夫と思っている住民をどう動かすのか、避難はいつどのような形で解除されるのか、すべきなのかなど多種多様です。

避難はどんなものでも、正直したくないわけで、それは面倒だしその後どうなるのかということを考えてしまうとものすごく心配になるからです。その反動的なこととして、日常的に経験してきたところによると、とにかく指示や警報があれば直情的にしたがうタイプと、周囲の状況を見ながら頃合いを見ながら行動する慎重型というか優柔不断なタイプ、何事にも自己中心型というか価値観を持って懐疑的に行動するタイプなどを見ることができます。

ところで、話が変わって様々なところで科学的リテラシーを身に着けることが大切であるといわれています。よく聞く言葉であるリテラシーというのは能力とか知識ということで、いわば精通という意味になるように思っています。科学の健全性をきちんと判断して市民として科学・技術の決定に参加できるような能力を身につけなさいということらしいのです。自らの意志で、物事を判断できるようになる事が必要で、大衆になってはいけないということではないかと思っています。避難ということもかなり自己判断が求められているところがあって、このリテラシー的なものが必要なのかなと思われます。

つまり、避難スイッチ（目安）は自らが決めるということで、異変への関心、情報の絞りこみ、周囲の人の振る舞いが素材（コントロールポイント）として重要であるということになります。もちろん、安全は目の前から直接的な被害が降りかからない域外へ移動することであり、安心は心の問題で異なるようには思えますが、いずれもとりあえずということで行動しているような気がします。したがって、避難は落ち着いたら、また元へ戻るという行為がついてきますので、先を見据えつつ行動しないと二次被害や思いがけない多重被災を受けるということにもなります。自然災害の多様性、拡大性などがますます顕著になっているステージに入ってきていることからこそ、自分の暮らしているエリアはどこで、

何が起きていて、それがどうなっていくのかをイメージできる能力を持っている必要は最小限必要になっているような気がします。